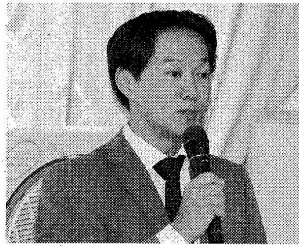


日本珪素医療研究会

# 水溶性珪素の研究成果を発表

## 第8回臨床発表会を開催



事務局長を務めるAP  
Aコーポレーション・  
岡田憲己社長

医師や医学博士、学識経験者が、珪素を活用した医療などについて情報交換を行うことを目的に設立された日本珪素医療研究会（事務局東京都、(電)03-3510-7050）は9月21日、東京

・品川のアリスクアカターアン品川で、第8回臨床発表会を開催した。参加した医師や研究者は、水溶性珪素を用いた臨床例や、珪素関連の最新データの発表などを行った。富山県立大学工学部工学科の立田真文准教授ら4人の会員が、水溶性珪素の研究成果について発表した。立田准教授は、新たな研究成果を基に、「非晶質（アモルファス）の珪素」であることの重要性を改めて訴えた。なお、同会の研究材料である「水溶性珪素umom（ウモ）」は、原料メーカーのAPACコーポレーション（エーピーエー、本社愛知県、岡田憲己社長、(電)0563-6510033）が提供している。

### 交流の場として発足

同会合では冒頭、同研究会の事務局長を務めるAPACコーポレーションの岡田憲己社長があいさつし、「日本珪素医療研究会は当初、珪素にまつわる医療関係者の情報交換・交流の場として発足

した会だ」などと説明。「APACコーポレーションは、水溶性珪素の供給を20年にわたって行っており、業界シェアの90%を占め、年間500トを出荷している」などとした。

「新原料『生体マトリックスumom（ウモ）』への切り替えを行うなど、水溶性珪素の改良を続けてきた」とも話した。発起人代表として（一社）日本文化振興会（事務局東京都）の副総裁を務める金子昭伯氏も登壇。「まだ何もないとこ

ろから、水溶性珪素の認知拡大に取り組んできた。使った人に喜んでもらうことが多く、その力をますます見せつけられてきた。取り組んで良かったと改めて満足を感じている」などと話した。

### シリカ水の研究成果発表

発表ではまず、「生体マトリックスumom」の研究開発に携わったことでも知られる、水の研究家の中島敏樹博士が講演を行った。講演のテーマは、「生体マトリッ

水の研究家・中島敏樹  
理學博士



クス珪素における水溶性珪素の生命能を探る」だった。

中島氏は、「生体系の水」「結合水」の重要性を強調した。そのうえで、国内外の複数の水溶性珪素を、「含水力」「誘電率」「常磁性」という生命能の観点から検証したことを報告。「結合水は、コロイドと水がくっついてコロイダルとして働いている」「生体マトリックス珪素はコロイダルそのものだ」と話した。

続いて、立田准教授が「そのシリカ安全ですか？非晶質の重要性とケイ素の抗糖化作用」をテーマに講演を行った。

立田准教授は「大切なのは非晶質。大切なのはアモルファス」と改めて強調。「水溶性珪素は、結晶質・非晶質の問題を正しく理解し、信頼できるところのものを使う必要がある」と呼び掛けた。その上で、天然シリカ水に関する最新の研究成果を発表。試験の結果、市販されている天然シリカ水24サンプルの内、21サンプルから「結晶質珪素が検出された」という。併せて調べた、「生体マトリックスumom」と植物由来水溶性ケイ素濃縮溶液「plantumom（プラントウモ）」からは、「結晶質珪素」が検出されなかったことも報告した。

立田准教授は「天然だから安全ということはない」と改めて説明した。立田准教授は、老化の主要な原因が、酸化と老化であることも解説。その両方の働きを持つ可能性があるので水溶性珪素だとした。

### 機能性表示食品化へ

令和メデイカルサイチ医学研究所（本社東京都）の神保太樹所長も講演を行った。「水溶性ケイ素の機能性と機能性表示取得に向けた今後の展望」がテーマだった。講演では、水溶性珪素に関するこれまでの研究成果を説明。「umom」

配合の機能性表示食品の開発を目指し研究を進めていることを報告した。実施した臨床試験で、血圧に対する有用性が示唆されたことを明らかにした。ストレスに対する有用性も示唆されたという。現在、高血圧抑制について二重盲検臨床試験の実施を予定していることも報告した。

最後の発表は、長野県中野市でたかはしクリニックを開業している高橋嗣明（つぐはら）院長が、「水溶性ケイ素の単独投与で期待される臨床効果」をテーマに行った。自身のクリニックで、水溶性ケイ素を単独投与した臨床事例や、水にフルボ酸と海藻由来のコロイドヨウ素成分を加えた製品を投与した臨床事例について報告した。